

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成 30 年 武道 振興 大会



挨拶を行う高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長

平成30年武道振興大会

外部指導者の積極的な導入を要望



高木陽介 武道議員連盟副会長・理事長（左）から林芳正 文部科学大臣へ決議文が手渡された

平成30年武道振興大会（主催＝武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館）が3月7日に東京・憲政記念館で、武道議員連盟会員の国会議員、武道関係者238名が出席し、開催された。大会では、中学校武道授業に関し、外部指導者の積極的な導入、海外日本人学校における武道必修化の内容充実などの要望を新たに盛り込んだ決議文が採択され、高木陽介 武道議員連盟副会長・理事長から林芳正文部科学大臣へ手渡された。

三藤芳生 日本武道館常任理事・事務局長の司会のもと、北川知克 武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言により、会は幕を切った。

始めに主催3団体を代表して江渡 聡徳 武道議員連盟会長より挨拶が述べられた。

「高村前会長から武道議員連盟会長のバトンを受け取りました。これか



林芳正文部科学大臣



高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長



江渡聡徳武道議員連盟会長



臼井日出男日本武道館理事長の発声で乾杯

ら会長として汗を流していきたいと思えます。特に東京オリンピック・パラリンピックに向けて頑張っていく所存であります。柔道のみならず、空手道が新たに五輪種目となりました。これからも多くの種目が五輪種目となるように努めてまいります。また、平成24年度からは中学校で武道が必修化され、次期学習指導要領には武道9種目が全て明記されました。次は小学校での武道必修化を目指したいと思います」

続いて高村正彦日本武道協議会・日本武道館会長が登壇した。

「現代武道の技術体系はそれぞれ異なりますが、それぞれの武道を修練するなかで心と身体を鍛えて、人間が生きていくべき道を求めるという共通点があります。武道の修練によって子供たちの健全育成が可能になります。日本人が失いつつある美しい心を取り戻すことができるのです。武道関係者の念願であった武道必修化が平成24年度から中学校において、形の上では実現しました。ですのでこれからそれに『魂を入れていく』ことが必要だと思います。『魂を入れる』ためには、全国各地の武道関

内閣総理大臣祝辞

武道振興大会の御盛会、誠にめでとうございます。

武道は、心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重し、心胆を錬るといふ、我が国が世界に誇る伝統文化です。「礼に始まり、礼に終わる」といわれるように、礼節を重んじる武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人人々に愛され、親しまれていることは、御同慶に堪えません。

第一次安倍内閣において、約六十年ぶりに教育基本法を改正し、道徳心を培うこと、健やかな身体を養うこと、伝統と文化を尊重することを教育の目標として明記するとともに、平成二十四年度から全国一万余校の中学校で武道を必修化いたしました。次代を担う子どもたちが、我が国伝統の武道に触れることで、心身ともに健全に育つことを願ってやみません。

また、二年後には、オリンピック・パラリンピック競技大会が再び東京で開催されます。今大会では柔道のみならず空手道も競技種目に採用され、国内外の多くの方々が、我が国の伝統文化たる武道の神髄に触れ、平和で豊かな社会作りへとつながることを期待しています。

結びに、本日ご参集の皆様には、平素から武道振興にご尽力を賜っておりますことに感謝を申し上げます。何卒、今後とも、より多くの皆様の心身の健全な発達のため、そして武道を通じた日本理解や国際親善増進のため、お力添えを戴きますようお願い申し上げます。私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成三十年三月七日

内閣総理大臣 安倍晋三

係者・武道家の皆様の熱意と協力が必要となりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます」

高木陽介武道議員連盟副会長・理事長が大会決議を力強く読み上げると満場一致で採択され、決議文は林芳正文部科学大臣にしっかりと手渡された。

それを受けて林大臣が祝辞を述べた。「24年度には中学校で武道必修化、そして次期学習指導要領には9つの武道が並列明記されました。これは関係者の皆様のご尽力の賜物と承知をしております。高村会長が仰つたように『魂を入れる』ことを現場でしっかりと行っていくことが大事であると認識しています。文部科学省、スポーツ庁として我々ができることをやっつていこうと思えます。武道は技をもつて相手を制することに留まらず、礼が基本であると承知をしております。試合が始まる前、終わった後、勝負にかかわらずしっかりと礼をする。それが我々が誇る武道の精神ではないかと思えます。先般、ベルギーの日本人学校の入学式に参列いたしました。一斉にきちんと礼をしている生徒の様子が

印象的でした。日本の教育だなどと感じましたが、その根底にはやはり武道の精神があると思います。武道を鍛錬することによって、日本人の心がしっかりと鍛えられます。我々としてもできることを行っていきたいと思えます」

政務の都合上、林大臣はここで中座。大きな拍手に包まれながら会場を後にする林大臣は、「文部科学省・スポーツ庁としての武道授業支援の方法は」との記者の質問に対し、「決議をいただいたので、それを踏まえ、しっかりと様々な施策を行っていったらと思います」と応じた。

続いて、各武道団体の代表挨拶が順次行われた後、白井日出男日本武道館理事長が「各武道の発展、さらには2020年東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて皆で協力してまいりましょう」と述べ、杯を高らかに上げ、乾杯となった。また、大会には安倍晋三内閣総理大臣から直筆の署名により、祝辞文が寄せられた。

最後に福岡資麿武道議員連盟事務局次長より閉会宣言があり、大会は閉幕となった。

決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで国力を増し、世界有数の経済大国となった。しかし、ここ十年来、国際情勢が厳しさを増す中、国力の低下が目立ち、少子高齢化や道徳心の乱れが相俟って、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。七年前の東日本大震災の爪痕は深く、復旧・復興は未だ道半ばである。

そのような折、国は国家再生へ向け、「国と郷土を愛する心、公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。また、五年前には、東京で二〇二〇年にオリンピック・パラリンピック大会を開催することが決定した。誠に、ご同慶の至りである。

翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を基調とする、体・徳・知を一体としてはぐくむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の繁栄と世界平和の実現に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度完全実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

記

一 平成二十四年度より完全実施された中学校武道必修化に関し、授業内容を充実させるため、実施時間の拡大を図るとともに、外部指導者の導入を積極的に進めること。

二 二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向け、実施種目となった柔道、空手道への支援・助成を強力に推進するとともに、会場となる日本武道館の建物・設備の増改修工事に最大限の支援・助成を行うこと。また、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表団や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、海外日本人学校における武道必修化の内容充実に向け、必要な支援・助成を行うこと。

三 中学校武道必修化が充実、成功するよう、施設、用具、指導者の条件整

備をより一層推進すること。

四 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道有段者の学生を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、処遇改善を図って、指導に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、実施すること。授業に当たっては、時間を増やし、複数種目の実施校拡大を図り、武道ならではの教育効果上がる「一礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研究会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

五 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

六 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

七 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

八 武道場の整備については、中学校武道必修化を含め、国の補助制度を拡充するとともに、必要な支援、助成を図ること。全国の町道場については、維持存続のため、相続税、固定資産税の減免措置を講ずること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成三十年三月七日

各武道代表者にインタビュー

中学校・高等学校の武道授業をどう進めるか？



代表挨拶をする日本相撲連盟・田中英壽副会長

各連盟・団体の代表者に、①実施7年目を迎えた中学校武道授業の課題と目標、②次期学習指導要領に9武道の明記が決まった高等学校武道授業の現状と課題、③そして中学校から高等学校への武道授業の接続、の3点について話を伺った。

●全日本柔道連盟・中里壮也専務理事兼事務局長

①中学校武道授業の課題と目標

「現在、柔道の競技人口は減少の一途を辿っております。その主因として、中学校での柔道部の減少があげられます。中学校数が減ると保健体育科教諭の数も減り、柔道を専門とする教員の数も少なくなります。そうすると柔道部の存続が難しくなってきます。ですので長期的に、柔道を専門とする保健体育の教諭を増やそうと活動を展開していきます」

②高等学校武道授業の現状と課題

「高等学校での武道授業はダンス等との選択制となっております。これは非常に困ったことで、昨今の子供はダンスが好きですのでそちらに流れてしまいます。できれば武道を独

立させてもらえないかと思えます」

③中学校から高等学校への授業の接続について

「高等学校でも、もちろん中学校から行っている柔道を続けてもらう活動は展開いたします。しかし、中学校で10時間前後の授業時間です。で、接続しているとは言い難い部分があります。そういう意味では中学校での授業時間をもう少し増やして、上手く接続できるような基盤を作らなければならないと思います」

●全日本剣道連盟・張富士夫会長

①中学校武道授業の課題と目標

「順調にいつていると思います。若い人たちにきちんと広がっていくということが大事ですね。後になり、振り返ってみて、やっていて本当に

良かったということになるんじゃないでしょうか。剣道を行えば、体もたくましくなるけど、精神的にタフになって、少々きつい仕事や何かでも、絶対にちゃんと乗り切っています」

②高等学校武道授業の現状と課題

「高等学校だと部活動が中心になります。中学校の授業でしっかりやって、性格としても、体つきでも剣道に向いていると思う人が、さらに自分の意思で、高校ではやるだろうと思います」

●全日本弓道連盟・岡本仁専務理事

①中学校武道授業の課題と目標

「今（弓道選択校が）20数校しかないのですが、それを30〜40校に広めたいです。弓道連盟では、実施校に



全日本空手道連盟
笹川堯会長



全日本弓道連盟
岡本仁専務理事



全日本剣道連盟
張富士夫会長



全日本柔道連盟
中里壮也専務理事・事務局長



全日本銃剣道連盟
酒井健会長



全日本なぎなた連盟
久保素子副会長



少林寺拳法連盟
川島一浩会長



合気会
植芝守央理事長

② 高等学校武道授業の現状と課題

● 日本相撲連盟・南和文副会長
① 中学校武道授業の課題と目標
「中学校での相撲授業の目標は、相撲を先生方に今よりもっと理解していただく、教育をしてもらうことです。安全を第一に考えてカリキュラムを見直しました。あとは触れ合いを重要視しています。相撲の面白みをエッセンスにして味わってもらえるような指導を、授業でもらえればと思います」

② 高等学校武道授業の現状と課題
「弓道を正課でやっているところはほとんどありません。しかし、部活動は盛んです。おかげさまで部活動での弓道実施校は2千校くらいになります。弓道経験のある高校の先生が非常に少なく、それが課題となります。弓道部のある学校に、大学で弓道をやった経験のある先生を振り分けていただきたいと思っています」

② 高等学校武道授業の現状と課題

● 全日本空手道連盟・笹川堯会長
① 中学校武道授業の課題と目標
「空手道は、経費もかからず、場所もとらず、専門の衣服も必要としませし、怪我もありません。『エイ！ヤー！』と元気溼刺にやれば良いのです。しかし、現在中学校では、学校長は何かあると困りますので、大幅な採用校増とまでは至っておりません。決議文のとおり武道を履修した教員が増えればと思います」
② 高等学校武道授業の現状と課題
「高等学校では、公立、私立とも実施校は割とあると思います。また、部活動も非常に盛んです。授業についても、中学校のように実施校が増えればと思います」

③ 中学校から高等学校への授業の接続について
「中学の授業ではかなり易しいところから入っています。中学で面白かったから高校でやっているという報告は特には入ってきていません。そういうものを狙ってはいます」

●合気会・植芝守央理事長

①中学校武道授業の課題と目標

「課題は現在合気道が採用されている学校が50校弱とまだ少ないということですが、そこで、指導者に対する

要請があった場合に、速やかに学校の教員の先生と協力して外部指導者として対応できる形を構築したいと思います。また、指導内容の更なる充実と、合気道を体育大学などで学習した方が教員になれるようなサポートをしていきたいです」

②高等学校武道授業の現状と課題

「クラブ活動は全国で100校程度、授業に至ってはもっと少ないと思います。少しでも学校側の要請に応えられるような体制をつくっていききたいです」

③中学校から高等学校への授業の接続について

「公立校だと一回途切れてしまっています。私立は継続することもあるのですが、それを足掛かりにして考えていきたいです」

●少林寺拳法連盟・川島一浩会長

①中学校武道授業の課題と目標

「現在、少林寺拳法授業の実施中学

校は全国で30校足らずで、数は少ない現状であります。そのため、各都道府県で2校の採用校を目指し、全国で100校を目標に、指導員の養成に力を入れていきたいです」

②高等学校武道授業の現状と課題

「数年前に少林寺拳法もインターハイの正式種目となりましたので、まずは部活動での実施校増加を期待しております。部活動実施校には併せて、授業でも少林寺拳法を採用してもらえよう推進していきたいです」

③中学校から高等学校への授業の接続について

「部活動指導員の活用を含めて、授業を実施しやすい指導方法等の研究を進めて、まずは実施校を増やしていきたいと思います」

●全日本なぎなた連盟・久保素子副会長

①中学校武道授業の課題と目標

「課題は指導者です。なぎなたを専門とする教員がいる学校は少ないのが現状です。外部指導者の活用も厳しいですね。指導者に道場のような気持で学校現場に行かれてしまつてはマイナスとなります。単になぎ

なたが指導できればいいというわけではありません。技術的な指導だけでなく、教育的な配慮がどれだけできるか。そして教員とタッグを組んでやれるのが問題です」

③中学校から高等学校への授業の接続について

「接続は中高一貫校だとできていますが、別々になると難しいのが現状です。指導者おりません。なぎなたは特殊なものですので、場所の問題もあります。天井の高さと、奥行きも必要です。課題はまだ山積みです」

●全日本銃剣道連盟・酒井健会長

①中学校武道授業の課題と目標

「現在、銃剣道の実施校は1校であります。まずは複数の中学校で銃剣道授業を実施してもらうこと。これが大きな目標であります」

②高等学校武道授業の現状と課題

「現在、銃剣道の実施校はありませぬ。部活動実施校に授業での銃剣道採用を促していこうと思います。また、全国で武道実施校がどのくらいあるのかも調査を行っていききたいと思ひます」

③中学校から高等学校への授業の接続について

「学習指導要領では、中学校も高等学校も『学校や地域の実態に応じて』との文言があります。銃剣道は、自衛隊駐屯地の地域内の中学校・高等学校で実施していただければと思います」



大会に出席した今里讓次郎次長

「今里次長は「指導者と学校現場を繋ぐこと。これが一番重要な課題となっております」と即答した。

続けて今里次長は「中学校では次期学習指導要領上は9種目の武道が必修化の対象となりましたが、指導者の確保、そして安全な指導法についてはまだまだ現場では足りない部分があります。指導できる立場の方々は、実際には多いと思います。しかしその方々が学校で指導する機会が多くないのが現状であります」とその理由を説明した。

高等学校次期学習指導要領に9武道が並列明記へ

平成30年武道議員連盟総会が武道振興大会に先立って同じく憲政記念館で開催された。

総会には、武道議員連盟会員の国会議員47名、政府・国会議員2名、日本武道館・日本武道協議会役員、スポーツ庁幹部の10名が出席。武道議員連盟の役員人事選任と平成29年度の会計報告、スポーツ庁による武道振興施策の説明（高等学校次期学習指導要領における武道授業、部活動指導員等）、日本武道協議会・日本武道館の活動報告、質疑応答が行われた。



スポーツ庁の武道振興施策について説明を行う今里讓次長（左）

福岡資麿事務局次長の進行のもと、はじめに高村正彦武道議員連盟・日本武道館会長より次期武道議員連盟会長の人事案が提案された。

「武道議員連盟の会長として長いことお世話になりました。次期武道議員連盟会長として江渡聡徳氏を推薦したいと思います」。これが満場一致をもって承認され、会長に江渡聡徳氏が就任した。続けて江渡新会長より挨拶が述べられた。

「高村前会長には武道振興のため、大変ご尽力いただきました。御礼申し上げますが、一生懸命頑張っていると思います」

続けて江渡会長より、武議連役員人事案に関して、高村前会長と臼井日出男日本武道館理事長に対する名誉顧問への推薦があり、全会一致をもって承認された。

次に北川知克理事・事務局次長より、平成29年度の会計報告がなされ、役員人事の議案が提出された。衆議員側の事務局次長として丹羽秀樹氏、また高木陽介副会長には理事長にも就任してもらいたい旨、説明があり、全会一致をもって承認された。

今里讓スポーツ庁次長より武道振興施策について説明があった。

「高等学校における次期学習指導要領が本年3月に公示される予定です。同指導要領案での武道の取り扱いについては（中学校のように必修ではないものの）、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること。」と明記し、さまざまな武道に触れることができるようにしています。

また、昨年3月に部活動指導員を制度化しました。部活動指導員制度では、従来の技術指導に加えて、学校長の監督のもと、顧問として大会等の引率ができるものです。平成30年度には中学校における部活動指導員の配置として5億円（4500人分）の予算案を計上しています。また、スポーツ庁では、運動部活動の取り組みに向けたスポーツ環境として望ましいガイドラインを年度内に作成する予定です。加えて今里次長より武道振興に係る平成30年度スポーツ庁予算案が説明された。

次に日本武道協議会・日本武道館の平成29年度活動報告が三藤芳生日本武道協議会常任理事・日本武道館常任理事兼事務局長より述べられた。報告では、中学校武道必修化に

関して、日本武道協議会設立40周年記念事業として武道9種目と武道編

からなる指導書とDVDを刊行し、3万部を全中学校、都道府県市区町

村教育委員会に無料配布したこと、国際事業として昨年11月に、高村正

彦団長をはじめ武道派遣団員75名がマレーシア・クアラルンプール市を

訪れ、武道演武会等を行ったことと、これによりクアラルンプール日

本人学校では来年度から武道必修化を実施することになった旨が説明さ

れた。

続いて質疑に移り、阿達雅志氏からは「武道の国際交流は日本外交の

面から見てきわめて意義があると思う。スポーツ庁でも外務省と綿密

に連絡を取り、日本武道館の国際事業に全面的に協力してもらいたい。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本

武道館が休館となり改修を行う。その約1年間も武道振興事業を止める

わけにはいかないので、各地の武道館を活用して事業を実施するのか。この点について配慮願いたい」

山谷えり子理事からは「日本武道館の中学校武道必修化第4回アンケ

ート調査結果によると、武道授業の年間平均実施時間は全体的に減少傾

向にあります。指導者についても外部指導者導入率は下がっておりま

す。これは大きな問題であり、改善の必要があります」との指摘があつ

た。

これを受けて今里次長より「日本武道館の国際交流事業については、

すでに助成をしています。日本文化の発信は重要なポイントだと思

いますので、外務省、あるいはJICAなどと連携をして努力していきま

す。授業の実施時間と外部指導者導入については、今回の部活動指導員

の制度化を踏まえて全体で取り組んでまいります。実際の指導者がどこ

にいるのかを必ずしも都道府県が状況を承知しておりません。その辺り

をよく調査して、活用を促していきたいと思ひます」と返答があつた。

最後に福岡事務局次長が閉会を宣言し、会は終了となつた。

武道議員連盟役員名簿

名 誉 顧 問	高村 正彦 (自民党副総裁)	白井日出男 (元衆議院議員)	
顧 問	大島 理森 (自民)	衛藤征士郎 (自民)	赤松 広隆 (立憲)
会 長	江渡 聡徳 (自民)		
副 会 長	鴻池 祥肇 (自民)	河村 建夫 (自民)	高木 陽介 (公明)
理 事 長	高木 陽介 (公明)		
理 事	逢沢 一郎 (自民)	有村 治子 (自民)	江田 康幸 (公明)
	北川 知克 (自民)	羽田雄一郎 (民進)	森 英介 (自民)
	山谷えり子 (自民)		
事 務 局 長	北川 知克 (自民)		
事 務 局 次 長	福岡 資麿 (自民)	丹羽 秀樹 (自民)	

平成30年3月7日現在

武道振興に係る平成 30 年度予算（案）

1. 武道指導の充実

(1) 指導内容の充実

○武道等指導充実・資質向上支援事業 191 百万円

武道等の安全かつ円滑な実施のため、教員の指導力向上を図るとともに、中学校新学習指導要領に記載されている柔道、剣道、弓道、相撲、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道の9種目の指導ガイドラインの作成・改善や、指導者データベースの整備などを行う。

○武道講習会の開催等 24 百万円

武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなり得る教員を養成するための武道講習会を開催する。

○運動部活動改革プラン【新規】 80 百万円

平成 29 年度に作成する「運動部活動の総合的なガイドライン」を踏まえた運動部活動に関する実践事例研究を行い、各学校において地域の実情等に応じた適切な運営が行われるよう、研究結果を周知・普及させる。

○学校における体育活動での事故防止対策推進事業 20 百万円

体育活動中の重大事故事例や情報、再発防止のために留意すべき点、事故防止方策等について分析を行うとともに、体育活動中における安全管理・事故防止について全国的な普及啓発を行う。

(2) 武道場の整備 4,554 百万円

中学校における保健体育科の「武道」を安全かつ円滑に実施するため、公立中学校武道場新改築事業等に対する国庫補助を行い、整備促進を図る。

・公立中学校武道場の整備（学校施設環境改善交付金） 4,490 百万円

・私立中学校等武道場の整備（私立学校施設整備費補助金） 64 百万円

(3) 武道関係教材等の充実

平成 24 年度から、10 か年にわたる「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に基づき、所要の地方財政措置を行う。

2. 武道団体への支援等

○日本武道館への補助 62 百万円

日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対する国庫補助を行い、我が国の武道の普及・振興を図る。

○（独）日本スポーツ振興センターによる助成

競技力向上事業助成やスポーツ振興基金助成、スポーツ振興くじ助成等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室の開催等の事業などに支援。

（平成 28 年度実績額） 6.0 億円

（平成 29 年度配分額） 7.9 億円

平成 30 年 2 月 27 日
スポーツ庁

武道振興施策について

高等学校学習指導要領の改訂

次期高等学校学習指導要領案【保健体育（武道抜粋）】

第1 体 育

2 内 容

F 武 道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解するとともに、得意技などを用いた攻防を展開すること。

ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすること。

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技を用いて、相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防をすること。

- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

- (3) 武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。

3 内容の取扱い

- (2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、各年次において次のとおり取り扱うものとする。

カ 「F武道」については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること。また、(1)の運動については、ア又はイのいずれかを選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができること。

武道等指導充実・資質向上支援事業

(前年度予算額：190,482千円)
30年度予算額：190,521千円

これまでの取組

平成24年度から中学校で現在の学習指導要領が実施され、体育関係では、武道等の必修化による国民の不安等の広がりを踏まえ、国が先導しながら全国的に安全かつ効果的な指導を図ってきた。これらの取組によりこれまでには死亡又は重大事故は生じていない。

課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学習指導要領の成果と課題の検証のための調査の結果から学習指導要領のねらいの実現や運動嫌いな子供を作らないようにするためには、全国的に一部領域等で質の高い授業の実践、若手教員をはじめとした指導者の資質向上や指導力強化が必要。また、次期学習指導要領改訂では、武道指導の内容が充実されることから、引き続き実施していくことが重要。

- 武道や課題がみられる領域の指導を担う教員の資質向上を図る。(都道府県・指定都市教育委員会に委託)
- 体育教員資質向上プログラム開発・実践
 - 優れた外部指導者と連携した指導体制の整備
 - 指導力向上のための研修の実施
 - 大学と連携した課題研究
 - 域内合同体育研究会実施

教員の資質向上・指導力強化

特色ある 武道指導の実践

- 中学校武道の指導の充実を図る。
(都道府県・市区町村教育委員会に委託)
- 地域や学校の実態に応じた特徴的な取組を実践研究
 - 実践研究の成果と課題の整理
 - 全国的な普及及び次期学習指導要領に向けた実践

支援体制の強化

- 関係団体等との連携による支援体制の強化のための取組
(法人格を有する民間団体に委託)
- 多様な武道等の指導を支援する取組
 - ・ 指導法のガイドライン作成
 - ・ 人材バンク等の作成
 - 指導資料作成等
 - 地域の指導者の指導力向上
 - 教育委員会・学校との連携

指導成果の検証

- 中学校保健体育において武道等を必修化したことによる成果と課題の検証を踏まえた課題解決のための指導法等
(大学に委託)
- 大学、教育委員会、学校の連携・協力による調査研究

■ 体育・保健体育の授業での子供の「できる」の実感の拡大

■ 子供の運動・スポーツに対する意欲や関心の向上

■ 学習指導要領のねらいの実現

好評発売中

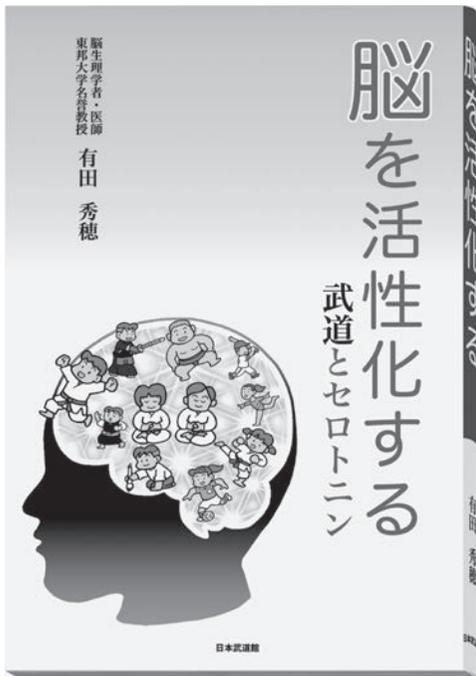
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)
昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

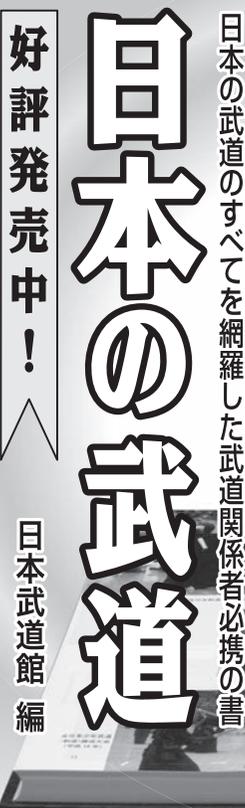
第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂
： 他

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
 お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ！
 TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

好評発売中!

日本武道館 編

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」(武道憲章英訳文)「ごも武道憲章」
カラー口絵(日本武道館、9武道+日武協30年のあゆみ)

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の姿 遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(掲載・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第17回全日本短剣道大会



団体・成年決勝＝50 普連 A・竹内大介（左）の胴が決まる

■団体戦成年の部
50 普連 Aが2年ぶりの優勝
 (高知県)

第17回全日本短剣道大会が2月18日に日本武道館で開催された。試合は3分三本勝負で行われ、時間内に決着がつかない場合は、判定で勝敗を決した。団体戦は3部門（成年・女子・高校生）で計164チーム、個人戦は5部門（成年A・成年B・成年C・女子・高校生）で計433名が参加し、短剣道日本一を争った。

■団体戦（3人制）

◇成年の部

決勝は、一昨年優勝の50 普連 A（第50 普通科連隊 A、高知県）と香川県選抜の対戦。先鋒戦、50 普連 A・大西が胴2本を連取。中堅戦は50 普連 A・竹内が終了間際に胴を決めて一本勝。大将戦も50 普連 A・小川が胴を決めて勝利。50 普連 Aは、全試合で対戦相手に1勝も与えず、堂々の優勝を果たした。

◎優勝 50 普連 A・鈴木庸浩監督

「昨年は3位で悔しい思いをしたので、自分たちに足りなかった部分を補うよう稽古しました。それが実った形になったと思います」

◇女子の部

決勝には、郡山 A（福島県）と久



団体・女子決勝＝郡山 A・先崎志帆（右）の2本目の胴

居駐屯地（三重県）が勝ち上がる。

先鋒戦は郡山 A の先崎が二本勝。中堅戦、試合中盤に郡山 A・村越が一瞬の隙をついて胴を決める。久居駐屯地・湊も果敢に攻めるが、村越は冷静に捌いて一本勝。大将戦は郡山 A・軽部が貫禄の二本勝を収め、優勝に花を添えた。

◇高校生の部

文星芸術大学附属高校 B（栃木県）と群馬県選抜 A による決勝戦。

先鋒戦は群馬県 A・渡辺、中堅戦は文星芸大附属 B・奥田が勝利し、勝負は大將戦へ。大將戦、中盤に文星芸大附属 B・戸村が値千金の胴を決める。戸村が群馬県 A・小金井の猛追を凌ぎ、時間終了。文星芸大附属 B が接戦を制した。

■個人戦

◇成年Aの部(35歳以下)

小川直希と竹内大介の50普通連同士の決勝戦。両者果敢に攻めるが、互いに手の内を知り尽くし、決め手に欠ける。勝負は判定に持ち越され、小川に旗3本が上がり、2年ぶりの優勝を決めた。

◎優勝 50普通・小川直希選手

「今日は積極的に、先に技を出すように心掛けました。決勝は力が入ってしまいました。欲を言えば技を決めて勝ちたかったです」



個人・成年A決勝=小川直希(右)対竹内大介

◇成年Bの部(36歳以上50歳以下)

決勝は、滝沢元氣(群馬県選抜)

が菊池純(34普通連)に胴2本を決めて、2年ぶりの頂点に立った。

◇成年Cの部(51歳以上)

決勝は、昨年優勝の田代勝(普教連)と昨年3位の相野照昭(青森県選抜)の顔合せ。試合中盤、胴の打合いになり、一瞬早く相野の胴が決まって一本勝。相野が5回目の優勝を遂げた。

◇女子の部

決勝は、青柳みさえ(1普通連)と軽部久美子(郡山)の対戦。青柳が



個人・女子決勝=青柳みさえ(左)が胴を決めて優勝

続けざまに胴2本を決めて、優勝を果たした。

◎優勝 1普通連・青柳みさえ選手

「自分から下がらず、前で勝負をすることを心掛けました。今日は子どもの誕生日で、見に来ている子どもたちのためにも負けられないという気持ちがありました」

◇高校生の部

小金井健尊(群馬県選抜)と中川誉久(須賀川少年団)の決勝戦。中盤に小金井が胴を奪う。2本目、小金井は臆することなく攻め、胴を決めて二本勝で優勝。



個人戦優勝者=左から小川、滝沢、相野、青柳、小金井

【大会結果】

■団体戦

- ◇成年 ①50普通連 ②香川県選抜 ③50普通連C、34普通連A
- ◇女子 ①郡山A ②久居駐屯地 ③北海道選抜B、北海道選抜A
- ◇高校生 ①文星芸術大学附属高校B ②群馬県選抜A ③栃木県選抜、文星芸術大学附属高校A

■個人戦

- ◇成年A ①小川直希(50普通連) ②竹内大介(50普通連) ③犬飼将貴(弘前駐屯地銃剣道部、大西沓(50普通連)
- ◇成年B ①滝沢元氣(群馬県選抜) ②菊池純(34普通連) ③松浦備(ALSO K、櫻井公人(18普通連)
- ◇成年C ①相野照昭(青森県選抜) ②田代勝(普教連) ③須合元(秋田県選抜、小池晃弘(32普通連)
- ◇女子 ①青柳みさえ(1普通連) ②軽部久美子(郡山) ③石橋昌子(武器学校、山口あや子(福島県選抜)
- ◇高校生 ①小金井健尊(群馬県選抜) ②中川誉久(須賀川少年団) ③野澤和将(文星芸術大学附属高校、渡邊裕也(文星芸術大学附属高校)



日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

〈目次〉

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ
大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ
森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ
森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ
塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ
金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ
多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ
合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ
澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ
桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ
竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(三馬術)

日本武道館の歴史



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ

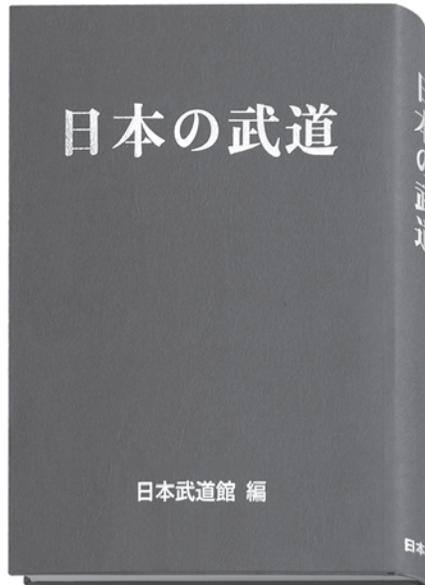
早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法なびなびとした銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!
一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!



(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書
日本の武道

日本武道館 編



少林寺拳法創始 70 周年記念レセプション 開祖の DNA を次の世代に



小山勇少林寺拳法連盟顧問の発声で乾杯



記念式典の様子



表彰を受ける高村正彦日本武道館会長

少林寺拳法創始70周年記念レセプションが2月24日、東京プリンスホテルで、関係者・来賓を含めた約430名が集まって盛大に開催された。

少林寺拳法創始70周年記念レセプションは三部構成になっており、第一部は記念式典、第二部は記念コンサート、第三部は午宴会が行われた。

第一部の記念式典は11時30分に開会。最初に、少林寺拳法創始70周年を振り返る映像を全員で視聴した後、主催者を代表して宗田貴少林寺拳法グループ総裁が挨拶を行った。

「少林寺拳法が創始された1947年は戦後間もないころです。少林寺拳法は、宗道臣が日本の将来を憂い、『武道を手段として人作りがしたい』として始めました。少林寺拳法開祖のDNAは、時代に必要なものを作り、進化させることです。

この創始70周年のイベントは全て次世代のメンバーが企画しましたが、それは次世代の人たちに自分たちが何を伝えられたらどうか、彼らが開祖のDNAを継承しているだろうか、そんな思いがあったからです。先程の70周年を振り返る映像を見

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

柔道は、大澤慶己、長谷川博之、腹巻宏一
吉村和郎、山内直人の5氏を掲載！

B5判・236頁



お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147



川島一浩少林寺拳法連盟会長



宗由貴少林寺拳法グループ総裁

て、DNAはちゃんと継承されていると思いきや、嬉しくなりました。少林寺拳法は世界40カ国で楽しまれておりますが、それぞれの国、社会の状況は違います。その社会に必要な人作りにこれからもこだわり続けたいと思っています。感謝の気持ちを込めてレセプションを開催させていただきますので、最後まで楽しんでいただきたいと思います」

続いて、長年、少林寺拳法グループに対する格別の支援・協力を行った後援者の表彰となった。表彰は高村正彦日本武道館会長・前少林寺拳法振興議員連盟会長、井上礼之ダイキン工業株式会社取締役会長をはじめめとする9名の個人と2団体に対して行われ、感謝状と記念品が贈呈された。その後は来賓を代表して、程永華中華人民共和国駐日本国特命全権大使が祝辞を述べ、来賓紹介、祝電の披露があり第一部が終了した。

休憩を挟んで、第二部の記念コンサート、第三部の午餐会と続いた。午餐会の冒頭では、小山勇少林寺拳法連盟顧問の発声で乾杯となり、出席者は思い出話に花を咲かせ、会場には笑顔が溢れた。そして、午餐会の中締めでは、川島一浩少林寺拳法連盟会長が挨拶に立った。「昨年夏にアメリカで開催された世界大会を皮切りに始まった少林寺拳法創始70周年記念行事を皆様のご支援・ご協力でも滞りなく終了することができました。今後は80周年、90周年、100周年に向けて、世界で一つの少林寺拳法を守り、世のため人のためになる拳士を一人でも多く育てていきたいと思っております。今後もこれまでに以上に少林寺拳法に対するご理解とご声援、ご協力を何卒お願い申し上げます」



乾杯



山下泰裕氏による記念講演会「柔道を通して学んだこれからの生き方」



百鬼史訓日本武道学会会長

50周年を契機にさらなる躍進を

日本武道学会創立50周年 記念式典・祝賀会

日本武道学会創立50周年記念式典・祝賀会が3月3日、東京都・千代田区の明治大学・紫紺館で開催された。また、記念式典・祝賀会に先立ち、山下泰裕氏（全日本柔道連盟会長・東海大学副学長）による記念講演会が行われた。

山下泰裕氏による記念講演会は午後2時に開会。「柔道を通して学んだこれからの生き方」と題して講演が行われた。山下氏は、自身の生い立ちや選手・監督時代の経験、柔道界の改革に向けた取り組みについて語り、最後に「嘉納治五郎先生と松前重義先生に認めてもらえるよう今後も努力していきたい」と結んだ。



午後4時からは記念式典が開催された。はじめに、百鬼史訓日本武道学会会長が挨拶を述べた。「日本武道学会は武道の普及・発展に資するため、武道に関する問題の研究成果を現場にフィードバックすることを目的としています。そして、国際会議等の関係によって海外の研究者との交流を推進する中で、日本武道の固有性について相互理解

を深めていきます。日本武道学会創立50周年を契機として、次半世紀への新たなスタートと捉え、さらなる躍進にむけて、学会活動に邁進していく覚悟でございます」

深代千之日本体育学会会長による来賓祝辞の後、日本武道学会の発展に尽力した賛助会員・顧問・名誉会員に百鬼史訓会長から感謝状・記念品が贈呈された。

引き続き祝賀会が行われた。村田直樹日本武道学会副会長による挨拶、蒔田実全日本剣道連盟常任理事、川島一浩少林寺拳法連盟会長、片山幸太郎全日本銃剣道連盟副会長による来賓祝辞の後、佐藤成明日本武道学会顧問による乾杯の発声で歓談となった。

出席者は武道学会創立50周年に思いを馳せ、和やかな雰囲気では終了した。



『安全柔道の薦め』

善道くんの話

伊藤 吉治 著

現代に見られなくなった風景の一つに町道場がある。昭和30～40年代には、剣道・柔道の町道場が東京にも結構あったものだ。今、町道場を維持している方々は、手弁当で子供たちに愛情を注ぐ武道熱血漢であるに違いない。

中学校の体育では武道が必修化され、特に柔道の安全指導がいろいろと工夫されている現在、幼年児童に向け柔道を安全に稽古するためにマンガでわかりやすく解説した小冊子。町道場もどっこい生きている、その心意気を感じる好著となった。

(善道館道場発行・非売品)

安全柔道の薦め

善道くんの話

第29回

小野派一刀流流祖忠明旗争奪

関東小学生剣道大会

2月25日 南房総市富浦体育館

◇団体表彰

優勝 昭島中央剣友会 (東京)

2位 四誠館 (埼玉)

3位 周南剣道スポーツ少年団 (君津市)

養浩館道場 (神奈川県)

敢闘賞 浦安本部道場 (浦安市)

直信館和泉道場 (神奈川県)

野間会 (富津市)

東松館道場 (東京)

◇個人表彰 (優秀選手賞)

阿部 暁 (昭島中央剣友会)

塩崎煌文 (昭島中央剣友会)

宮川拓也 (四誠館)

佐藤羽多 (周南剣道スポーツ少年団)

西山大稀 (養浩館道場)



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

マンガ・武道の偉人たち

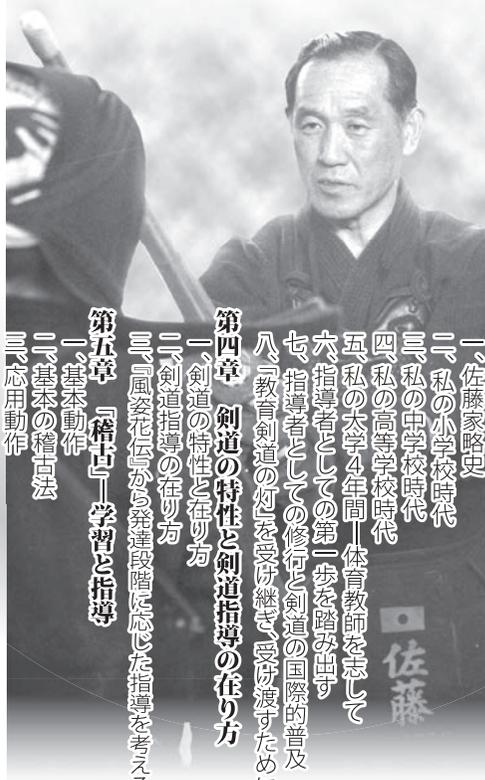
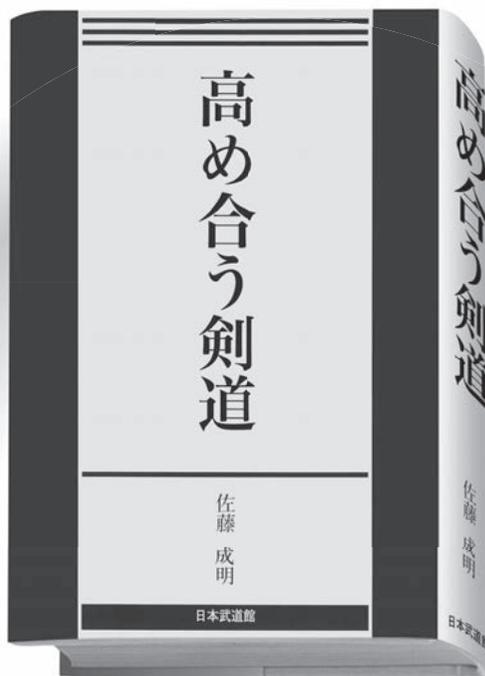


ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著



目次

第一章 剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史

一、奈良時代～江戸中期―

闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで

二、江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ

第二章 剣道と教育

一、教育に関する基礎知識

二、「三育思想」

三、「教育基本法」と「学習指導要領」

四、「礼」の教育について

第三章 自分史を綴く

一、佐藤家略史

二、私の小学校時代

三、私の中学校時代

四、私の高等学校時代

五、私の大学4年間―体育教師を志して

六、指導者としての第一歩を踏み出す

七、指導者としての修行と剣道の国際的普及

八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために

第四章 剣道の特性と剣道指導の在り方

一、剣道の特性と在り方

二、剣道指導の在り方

三、「風姿花信」から発達段階に応じた指導を考える

第五章 「稽古」―学習と指導

一、基本動作

二、基本の稽古法

三、応用動作

四、稽古への取組方と方法

五、剣道における形の重要性

第六章 試合について

一、試合(一)―先達の文献から

二、試合(二)―剣道の「術理」

終章 高め合う剣道

一、稽古の意義と心得

二、剣道に関する古今の訓え

三、互いに学び高め合う教育剣道のために

“互いに学び高め合う教育剣道のために”

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修練で大事な事柄を綴る。
これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

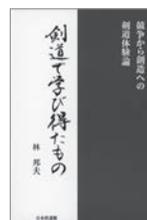


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。